

## 別表 1 「評価基準」

### 1 本人の状況（最高30点）

| 評価項目            | 15点 | 13点   | 10点   | 6点   |
|-----------------|-----|-------|-------|------|
| 要介護度            | 5   | 4     | 3     | 2～1  |
| 認知症の症状(日常生活自立度) | Ⅳ以上 | Ⅲa・Ⅲb | Ⅱa・Ⅱb | Ⅰ・なし |

\* 日常生活自立度が不明の場合は、面接等から、別表2「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」に基づき評価する。

### 2 介護者・家族等の状況（最高60点）

※一人暮らしの高齢者は、①～④は40点とする。

※病院・老人保健施設等に入院(所)中の場合は、①～⑤は当該施設を退所した場合の状況。

| 評価項目                                                                          | 10点                                            | 7点            | 3点           | 0点 |
|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|---------------|--------------|----|
| ① 主たる介護者が障害、病<br>気、高齢の状況にある                                                   | 介護困難                                           | 多少介護可能        | 介護可能         | なし |
| ② 主たる介護者が申込者以<br>外の介護・看護をしている                                                 | 常時の<br>介護又は看護                                  | 半日<br>介護又は看護  | 随時<br>介護又は看護 | なし |
| ③ 主たる介護者の就労状況                                                                 | ・フルタイム勤務<br>(8時間程度以上)<br>・高齢で就労困難<br>・介護のため休職中 | 4～8時間程度       | 4時間未満        | なし |
| ④ 主たる介護者が育児・子<br>育てをしている                                                      | 育児<br>(未就学児)                                   | 子育て<br>(小中学生) | 子育て<br>(高校生) | なし |
| ⑤ 主たる介護者以外の者の<br>介護補助                                                         | いない<br>又は介護困難                                  | 多少介護可能        | 常時あり         | —  |
| ⑥ 介護の継続性<br>(勘案事項)<br>・在宅サービスの利用による<br>在宅生活<br>(介護者の介護負担も考慮)<br>・入院(所)中の施設の利用 | 継続困難                                           | やや困難          | 継続可能         | —  |

\* 2①主たる介護者の状況の目安

- ・介護困難＝要介護者の排泄、入浴、移動、着替え、食事などADL全般の援助が困難
- ・多少介護可能＝2程度のADL援助ならが可能

\* 2⑤主たる介護者以外の者の介護補助の目安

- ・多少介護可能＝週1～3日程度
- ・常時あり＝週4日程度以上

### 3 施設における特記事項（最高10点）

※委員会の判断により、入所希望者の個別事由について、入所を特に考慮すべきと認められる項目を任意に設定する。

別表2 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

| ランク   | 判定基準                                                  | 見られる症状・行動の例                                                                        |
|-------|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| I     | 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。                  |                                                                                    |
| II    | 日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。 |                                                                                    |
| II a  | 家庭外で上記IIの状態が見られる。                                     | たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等                                           |
| II b  | 家庭内でも上記IIの状態が見られる。                                    | 服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等                                              |
| III   | 日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。            |                                                                                    |
| III a | 日中を中心として上記IIIの状態が見られる。                                | 着替え、食事、排便、排尿が上手にできない・時間がかかる。やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声、奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等 |
| III b | 夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。                                | ランクIII aに同じ                                                                        |
| IV    | 日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。       | ランクIII aに同じ                                                                        |
| M     | 著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。               | せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等                                        |

出典：「認知症老人高齢者の日常生活自立度判定基準」の活用について  
 （平成5年10月26日老健第135号厚生省老人保健福祉局長通知）